

科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（初等教育コース・特別支援教育コース）  
授業科目名：初等音楽  
対象年次：2年次

## 初等音楽

音楽教育講座・福富 彩子

### 1. 授業の目的と到達目標

小学校学習指導要領（音楽）の歌唱の授業に対応できるピアノ伴奏及び弾き歌いの表現・技能の習得を目的としており、初等歌唱共通教材を主に取り上げて演習形式で授業を行った。

到達目標は、次の3点である。

- 1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- 2) 小学校教科書掲載程度の楽曲が弾き歌いできる。
- 3) 音楽を愛好する心を演奏を通じて表現できる。

### 2. 授業の概要について

本授業は、学校教育教員養成課程初等教育コース・特別支援教育コースの2回生を対象とする教科及び教科の指導法に関する科目である。

クラス分けの形態で開講されており、2023年度の福富クラスの受講者数は8名であった。授業では、弾き歌い及び簡易伴奏や和音付けの知識・技能の習得に加え、表現の拡充を図るため、授業外学習が非常に重要となる。最終試験までの課題は、弾き歌い（ピアノ伴奏を含む）7曲を最低修得曲数として設定しており、最終回は5曲（弾き歌い・伴奏）の実技試験と振り返りを行った。全受講者の小学校歌唱教材修得曲数は、10曲～25曲であった。

以下、本授業の授業スケジュールである。

- 第1回 コード伴奏・歌唱教材について～導入～
- 第2回 ピアノの基礎的奏法について
- 第3回 基礎課題の演習（うみ）
- 第4回 基礎課題の演習（かたつむり、日のまる）
- 第5回 基礎課題の演習（ひらいたひらいた、かくれんぼ）
- 第6回 ピアノの応用的奏法と弾き歌いについて
- 第7回 発展課題の演習（春がきた）

- 第8回 発展課題の演習（虫のこえ）
- 第9回 発展課題の演習（夕やけこやけ、うさぎ）
- 第10回 表現の多様性 アーティキュレーション  
応用課題の演習（茶つき、まきばの朝）
- 第11回 表現の多様性 レガート奏法とペダル  
応用課題の演習（春の小川、さくらさくら）
- 第12回 応用課題の演習（ふじ山、ふるさと 他）
- 第13回 応用課題の演習（もみじ、冬げしき 他）
- 第14回 総まとめと課題の演習
- 第15回 実技試験と振り返り

※受講者に応じて課題変更の可能性あり。

### 3. 授業実践

#### 1) 個と集団（全体）を相互に関連付ける取り組み

本授業の初回に基本的な和音(I度, IV度, V度)と、それらの和音進行について講義と演習を行い、コード伴奏の基本知識に基づいて簡易な和音付けができる能力の育成をはかった。

受講者それぞれが自己課題を明確にして改善方法を探り練習に活かす取り組みを促すことともに、熟達度の異なる受講者同士での活動を通して、技能・表現の向上を図ることのできる指導法の工夫が必要であると考えた。そこで、全体での活動後に個人レッスンの時間を設け、個別の課題や熟達度に応じた指導・助言を行った。授業最後には全員での歌唱とピアノ伴奏を行うなど、個と全体の活動が相互に活かせるよう心がけた。

授業1コマの流れ

全体(10分)	個別(60～70分)	全体(10～15分)
和音付 前回の課題確認	各受講者への個別指導/課題の練習 次回までの課題の提示	伴奏+合唱 振り返り

## 2) 熟達度の異なる学生への実技指導

小学校の歌唱共通教材は、簡易伴奏と本伴奏両方の楽譜を受講者全員に配布した。個々の熟達度や進度に応じて課題選択を行い、簡単な和音付けや伴奏のアレンジなど演習中に適宜助言することで、小学校で求められるピアノ伴奏能力と音楽指導を行うための動機づけ、基礎的な知識・技能の修得をねらいとした授業展開を行った。本授業の課題実施には、予習・復習が欠かせないため、毎時間、実現可能な目標と課題を確認し合い、授業外学習の促進とともに、授業後も継続的な学びにつながるよう促した。

## 4. 授業アンケートの結果と考察

授業終了時に受講者8名を対象に実施したアンケートの調査結果を以下に記す。

表1. 授業外の学習時間(週平均)

受講者	この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間(一週間の平均)	この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間(一週間の平均)	合計時間(週の平均)
A	2.5	2	4.5
B	1	1	2
C	1	0.5	1.5
D	3	0	3
E	3	0.5	3.5
F	1	0	1
G	3	0	3
H	2	2	4

表2. 授業についてのアンケート結果 n=8(%)

	授業の課題・進度は適切であったか	自己課題を明確に持ち、この授業に参加するつもりであったか	自己課題に対する改善方法を探求・実践し、目標を達成することができたか	自時の課題(演奏)について、フィードバックや助言をもらうことができたか
とてもそう思う	8(100%)	8(100%)	5(62.5%)	8(100%)
ある程度そう思う	0	0	3(37.5%)	0
あまりそう思わない	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	0

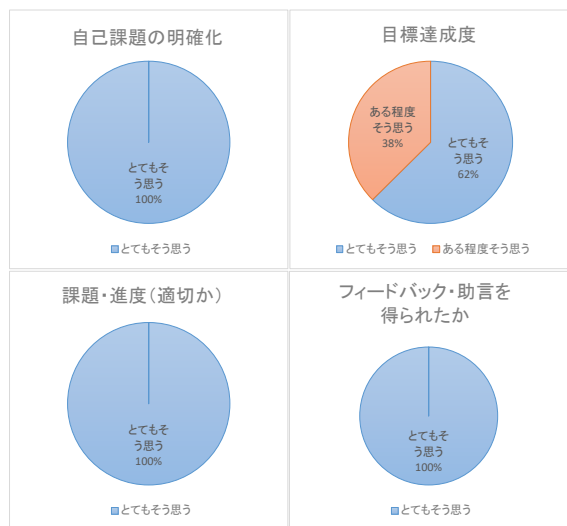


図1. アンケート結果

授業時間外学習(表1)に関して、週平均 1~1.5時間(2名)、2時間(1名)、3~3.5時間(3名)、4~4.5時間(2名)であった。受講者8名の週平均は2.8時間であり、意欲的に取り組んでいる受講者が多

いことがわかる。

「課題・進度は適切でしたか」「自己課題を明確に持ち、この授業に参加することができましたか」「毎時の課題(演奏)について、フィードバックや助言を得ることができましたか」の質問には、全受講生が「とてもそう思う」と回答した。「自己課題に対する改善方法を探求・実践し、目標を達成することができましたか」の質問には、「とてもそう思う」が5名、「ある程度そう思う」が3名であり、改善方法を探求実践した上である程度目標達成できたものと考えられる(表2, 図1)。

自由記述式のアンケート(表3)では、弾き歌いが難しいと感じる受講者がいる一方で、音楽との触れ合いや技能向上を楽しみ感じモチベーションを高めた学生も多く、ピアノ伴奏や弾き歌いといった技能・表現面の向上だけではなく受講生がピアノ演奏に取り組む姿勢、意欲・関心を促すきっかけとして本授業の役割は大きいものと推察できた。今期の受講生は一人一人が自己課題を明確に持ち、授業外での練習を積み重ねて最終試験での発表会でそれぞれの成果を発表できていた。また試験後の振り返りでは全員から意欲的に取り組めたとのコメントがあったことは非常に良かった点である。

表3. 自由記述式の意見・感想(抜粋)

先生が優しく御指導くださったため、ピアノが嫌いにならず練習することができました。ありがとうございました。
弾き歌い自体がすごく難しかったです。単純に「弾ける」だけではなく表現についてもご指導いただいたので、大変勉強になりました。個人で家で練習する時にも意識しようと思います。
わかりやすい指導で技術のレベルアップがはかれたと思う。
先生に感謝しています。
個人のベースに合わせた指導をいただいたので、とてもレッスンが受けやすかったです。また、音楽に親しみかけにもなり楽しみながら強くことができました。ありがとうございました。
久しぶりに音楽に触れ、とても楽しい授業でした。来年の本実習に活かせるようにしていきたいです。ありがとうございました。
弾き歌いの学習が十分に出来た。合唱曲などもしてみたい。

今後の課題として、小学校共通歌唱教材の演習が中心となるため、中級者・上級者の受講学生にとってはその他の歌唱教材や合唱曲等に触れる機会を求める意見も挙がっている。また、個別指導の際にはそれぞれの課題に対してコミュニケーションを取りながら丁寧に改善方法を検討したり適切な支援ができる利点がある一方で、全体歌唱や振り返りの時間が限られてしまうことが課題として挙げられる。個別指導時に、他の受講生への指導の在りようを工夫し、オンライン教材の利活用や合唱の演習、学生同士での学び合いも適宜取り入れるなど、より良い授業展開となるよう今後も模索していきたい。